

令和元年度 家庭教育支援活動一覽

○事業実施市町および取組教育支援活動

8市町16活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	家庭教育を支援する取組の展開	連絡会議・ケース会議	保護者への情報提供
1	近江八幡市	○	○	○		
2	草津市			○		
3	栗東市			○		
4	甲賀市	○	○	○		
5	湖南市		○	○		
6	高島市	○	○	○		
7	日野町	○		○		
8	竜王町			○	○	○

○教育支援活動の内容

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	習得を期待する能力	養成後の活動の場
1	近江八幡市	3	・より客観性を持った視点で現状を見る ・関係機関との連携、人材の紹介、発掘 ・研修などの企画、提案	・学校や地域施設において保護者交流や研修会等の企画 ・関係機関の情報をアドバイス
2	甲賀市	1	・手遊びや絵本読み聞かせ等のスキル ・ボランティアとしての意識向上・心構え ・子育てサポーターとしての基礎知識	・ブックスタート、園での読み聞かせ ・子育て広場等の後方支援
3	高島市	1	・家庭環境の多様化や地域社会の変化への対応	・子育て支援者や地域の民生委員・児童委員として活動
4	日野町	5	・子どもの発達や遊びについての知識 ・親子に寄り添い、子育てや家庭教育について相談に応じるための力	・親子ふれすて、つどいの広場、子育てサロン等、親子が集う場所での支援

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会の提供・コーディネート	サロン・相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	237(延べ)	○	○	○
2	甲賀市	10	20(延べ)	○		
3	湖南市	5	235(延べ)	○	○	○
4	高島市	12	36(延べ)	○	○	

【支援する取組の展開】

	市町名	実施小学校区数	開催回数	活用する行事等の機会 ※1	講座の概要 ※2
1	近江八幡市	9	10	④⑤⑥	②③⑦⑪
2	草津市	4	42	④⑤	①②③⑤⑥⑦
3	栗東市	1	4	②③④⑤	①②⑥
4	甲賀市	8	38	④⑥	①③④⑥⑫⑬
5	湖南市	4	13	④⑤⑥	①②③⑤⑥⑦⑪⑬
6	高島市	13	33	④⑤⑥	①⑫⑬
7	日野町	5	36	②⑤⑥	③⑦⑬
8	竜王町	2	29	⑤⑥	②③⑤⑪⑬

※1 ①乳幼児健診 ②就学時健診、③入学説明会 ④保護者会、参観日 ⑤PTA研修会等 ⑥単独開催

※2 ①発達段階の特徴や親の心得 ②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会 ③生活習慣、食育 ④遊び、運動
⑤仕事と家庭の両立や親子のコミュニケーション ⑥道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成 ⑦インターネットや携帯電話等 ⑧お小遣い・消費生活
⑨いじめ、不登校、非行、問題行動の対応 ⑩虐待 ⑪子育て・家庭教育への男女共同参画 ⑫乳幼児とふれあい ⑬その他

令和元年度事業計画書等より

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市にも、三世代以上が同居している家庭、核家族家庭、単親家庭など様々な家庭がある。その中で地域に根ざして生活している家庭もあれば、周りとの関係性が少なかったり、孤立傾向にあつたりする家庭も少なくない。そして、経済的に厳しい家庭や、就労形態が子育てのしにくさにつながる家庭、子どもとの関わり方に困難を感じている家庭、子どもの特性を親だけで抱え込み、しんどい思いをしている家庭も存在する。また、「～してはいけない。」と感じる環境の中で、子育てのしにくさを感じている親もいるようである。そのような中で不安や悩みをかかえたまま子どもと向き合う保護者もいる。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い話を聞くことで不安や悩みを軽減できる場合もある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。また、誰かとつながることで、保護者自身の家族や地域で生きにくさを感じていることへの、不安や課題を軽減できるようにする。そして、安定した子育てにつながるようにする。

■本年度の活動

（１）市内９小学校における各家庭支援チームによる活動の展開

- ・定期的な支援チームでの情報共有会議
- ・保護者対象の子育てに関する講座の実施
- ・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施
- ・家庭教育支援員による相談活動

（２）市子育てサロンの実施と家庭支援員の交流

- ・各学期１回ずつ、市内小学校および５歳児の保護者対象の子育てサロンの実施（１、２学期は小学校対象、３学期は５歳児の保護者と小学校一部学年対象）、終了後のふり返りと、小学校等への概要報告

■本年度の成果

- ・９小学校の家庭支援員同士の交流が各校での活動にいかされている。
- ・昨年の振り返りをいかし、今年は市子育てサロンにテーマを設定し講師を招いて実施することにより、参加者が増えたことから、保護者の抱えるしんどさが垣間見えた。
- ・すぐに成果の表れる事業ではないが、各校での家庭教育支援員のはたらきかけや、学校単位では実施しにくいサロンを市で実施することにより、学校現場の支援となっていることもある。

■今後の課題

- ・各学校に有効な家庭教育支援になるよう、事業の方向性を明確に示していく。
- ・しんどさを感じている保護者の思いに寄り添えるよう、支援が必要と思われる保護者とつながれるよう、学校と家庭教育支援員がスムーズに連携できるようにする。
- ・家庭教育支援員、学校、学校内の家庭教育支援チームと事務局の連携を密にする。



【６月市子育てサロン】
～自分だけの怒りのトリセツをつくろう～



【１１月市子育てサロン】
～伝わりにくさ、やりにくさ～

小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

近江八幡市	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 	
講座数（活動日数）	40 講座（40 日）

家庭教育支援チーム数	9 チーム
家庭教育支援員数	9 人
子育てサポーター等	14 人
実施開始年度 （平成 21 年）	実施学校区数 （9 小学校区）

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成

家庭教育支援員の資質向上や情報交換のため、県主催の研修会の案内や、市子育てサロンの場を研修の一つとして考えている。

○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援員等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、学校からの指示や助言を得ながら家庭教育支援活動を行えるよう努める。各学校の状況に応じた活動を行う。

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援員が、家庭教育支援チームの一員として学校と連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行う。

○連絡会議・ケース会議の設置・運営

学校の状況に応じて、月 1 回程度、家庭教育支援チーム連絡会をもち、チーム内あるいは地域と情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や支援・指導にいかす。より深刻なケースは、各機関と連携し、訪問教育相談員やスクールカウンセラーの教育相談、福祉のケース検討会議等へつないでいることもある。コミュニティセンターや民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めているチームもある。

○保護者に対する情報提供

講演会の案内や開催する講座に沿ったテーマの情報提供や、家庭教育支援員が受けた講演内容の提供をする。子育てサロンなどの案内も随時行う。

■ 特徴的な活動内容

○保護者と家庭教育支援員等が子育てについて気軽に話せる座談会（ほっこりカフェ）

○子育てコーディネーターや家庭教育相談員を招いた子育てサロン

○保護者対象のテーマを設けた講演会や学習会

○親子活動としての料理教室や、ものづくり教室、映画鑑賞会、学習会

○親子、地域、学校が連携した行事

○各校の家庭教育支援員と、市職員の企画で「市子育てサロン」の実施



【食生活を見直す郷土料理作り】
（学区健康推進員さんとコラボ！）

■ 実施に当たっての工夫

○保護者が多く参加する行事で、本事業の PR をするようにした。

○事業のネーミング、堅苦しくならない環境、実施曜日や時間帯の設定を工夫した。

○親子で一緒にできる活動を取り入れるようにした。

○家庭教育支援員、スクールソーシャルワーカー、学校の職員、相談員など、それぞれの内容で相談がしやすい環境を設定した。

○参加しやすいように、日時の設定の仕方や、地域のコミュニティセンターや子どもセンター利用など実施場所の検討。

○子どもの小学校区では参加しにくかったり、家庭教育支援員の配置が無い小学校の保護者も対象にしたりするため市全体の保護者対象に「市子育てサロン」の開催を継続した。（今年度はテーマを設定して講師による講話とワークショップを 2 回開催）小学校を介しての申し込みに加え、市教委に電話・FAX で直接申し込めるようにした。参加状況や様子については、各小学校に紙面報告をしている。

■ 事業の成果

○地域をよく知る家庭教育支援員や、子育てサポーターのかかわりで、保護者の状況に合わせた支援ができた。

○家庭教育支援員の継続した関りから、家庭訪問で保護者とつながることが可能になったケースがある。

○コミュニティセンターを拠点とした地域の方と親子が一緒にできる講座も定着してきた所もある。

○保護者のサロンへの参加人数は少ないものの、相談や話し合いなどは充実してきている。また内容が明確な講座へは参加しやすいようである。（アンガーマネジメントや子どもの特性の理解など）

■ 事業実施上の課題

○各校での課題をとらえ、本事業で可能なことや方向性を明確にすること。

○家庭教育支援チームが効果的に機能するための連絡調整の持ち方の工夫が必要である。

○このような事業に参加しにくい保護者へのはたらきかけの方法、親同士が気軽につながる場づくりを考えていく必要がある。

報告書記入者（生涯学習課）

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和 29 年）より、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入してくる子育て世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者へ学習機会を提供することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

（１）家庭教育学習事業費補助金

家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位 PTA の実施する家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 PTA における特色のある家庭教育学習事業を支援。



【 親子のコミュニケーション講座 】

（２）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。

学校と連携した学習会の実施や、1歳6か月の乳幼児健診の場を活用し、図書館との連携により家読の大切さの啓発を実施。また、地域の公共施設（図書館）を利用し、家庭の教育力の向上を図る講座を実施。



【 絵本 de うちどくサポート広場 】

（３）家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布するなどの情報発信を行う。

■本年度の成果

家庭教育サポート事業について、各小学校と連携し、保護者の集まる機会を利用して、家庭教育に関する講座を実施することにより、SNS の危険性や家読の大切さなどの啓発に努めた。

また、乳幼児健診の場を活用した家庭教育支援の実施により、家庭教育に関心が薄い保護者への啓発に取り組むことができた。

■今後の課題

- ・家庭教育講座等に参加することが難しい保護者に対する学習機会の創出

草津市家庭教育サポート事業～コミュニケーションで育む家庭の力～

草津市			
活動内容 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施		家庭教育支援チーム数	(1) チーム
		家庭教育支援員数	(0) 人
		子育てサポーター等	(0) 人
講座数 (年間活動日数)	6講座 (41日)	実施開始年度	実施学校区数
		平成30年度	(3小学校区)

■ 活動の具体的な内容

○ 学習講座・行事の実施

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信により、家庭の教育力の向上を図るとともに子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

○ 保護者に対する情報提供

市広報誌において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、家読や自尊感情、ネットトラブル防止等に関する啓発チラシや資料を配布することで情報発信を行う。

■ 特徴的な活動内容

○ 学校と連携した家庭教育サポート事業

市内3校と連携し、授業参観や学校行事等の保護者が集まる機会の前後に学習会を実施
 ・外部講師を招いた「きちんと届く伝え方～表情豊かに向き合っって子どもの感性を育もう～」
 「みんなが笑顔になれる親子のコミュニケーション」他全4講座

○ 地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

図書館の会議室を利用した講座を実施し、スマートフォン等の利用に関する家庭でのルールづくりについて家庭の教育力の向上を図る学習会を実施
 ・滋賀県警や少年センター職員によるインターネットトラブル防止に関する講演
 ・図書館司書との連携のもと関連図書を掲示



【 図書館での家庭教育講座 】

○ 1歳6か月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

月に3回ある1歳6か月の乳幼児健診の場を活用し、「絵本 de うちどくサポート広場」を実施
 ・健診の待ち時間に読み聞かせの啓発DVDを上映
 ・たくさんの絵本を展示し、親子で絵本に触れてもらう
 ・月の最後の健診時には、図書館司書による読書相談を併せて実施
 ・家庭での読書環境に関するアンケートの実施
 ・乳幼児期からの家庭読書の大切さを啓発するチラシを受診者全員に配布

■ 実施に当たっての工夫

○ 地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

・対象年齢等を限定することにより保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整
 ・図書館司書との連携のもと関係図書を掲示し、図書の貸し出しについて案内することにより、家庭での継続した学びとなるよう促した。また、実施テーマを会場施設(図書館)に関連しない内容とすることにより、普段図書館に来ることの少ない保護者に対して図書館の利用と家読の大切さの啓発を行った。

○ 1歳6か月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

・たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布するとともに家庭での読書環境に関するアンケートを実施し、口頭で家読の啓発を行った。

■ 事業の成果

○ 参加者アンケートでは、「インターネットは今後ますます重要になってくるので、とても参考になりました。これからは情報収集に努めたいと思います」、「共感してあげることの大切さを改めて思いました」などの感想をいただき、どのテーマでも家庭での教育力の向上につなげることが出来た。

■ 事業実施上の課題

○ 学校と連携した家庭教育サポート事業

近年、共働き家庭が増加していることもあり、小学校では、保護者が多く集まる事業をなるべく同一日に実施するなど、事業の整理を図られていることから、より多くの学習機会を提供できるよう、実施方法の見直しについて検討する必要がある。

報告書記入者 (生涯学習課 職員)

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。当然校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応しきれないというのが現状である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

（１）就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということと呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

（２）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童５名を中心に支援。送迎時に保護者に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

（３）連絡会議・ケース会議への参加

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や当該児童の担任に、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

（４）保護者に対する情報提供

学校だより等において、家庭教育支援員の紹介をした。また、子育てに悩んだときは、いつでも相談できるということを保護者に発信した。

■本年度の成果

どんなところを家庭で育てていくのか、学校との連携はどのように図っていけばよいのか。家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。また、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■今後の課題

家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

家庭の教育力アップをめざして ～栗東市の家庭教育支援～

栗東市	
活動内容 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	4講座（現在58日）

家庭教育支援チーム数	()チーム
家庭教育支援員数	(1)人
子育てサポーター等	()人
実施開始年度	実施学校区数
平成30年度	(1 小学校区)

■ 活動の具体的内容

○連絡会議・ケース会議の設置、運営

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や該当児童の担任に、保護対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

○保護者に対する情報提供

学校だより等において、家庭教育支援員の紹介をした。また、子育てに悩んだ時は、いつでも相談できるということを保護者に発信した。

■ 特徴的な活動内容

○就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだ時は相談できる人や体制があるということ呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

○校内適応指導教室における支援・保護者相談

個別懇談会等で、児童の様子をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりを円滑にするための手立てについて助言したりした。



子育て相談窓口

■ 実施に当たっての工夫

○就学時健康診断では、来年度就学を予定している保護者に向けて、子どもたちが学校生活をよりよく送るために、子育てに悩んだ時には相談できる人や体制があるということ呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。基本的な生活習慣を整えるなど、就学までの数か月に家庭でできることについて助言するなど、就学前からの支援を行った。

○校内適応指導教室において、児童に応じて学習や生活の支援を行った。対象の児童の保護者には、児童のがんばりや成長について話をしたり、生活改善に向けてのアドバイスをしたりした。保護者は相談を通して、子育てで大切にすることがわかり、子どもへの関わり方の見直しにつながった。

■ 事業の成果

○研修会や相談会を通じて、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

○家庭教育支援員が、じっくり話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わるようになった。

■ 事業実施上の課題

○福祉部局との連携をどう深めていくかが課題である。

○保護者が自分の子育てについて振り返ったり、また、保護者同士が家庭教育について交流したりする機会をどのように設けていくとよいか検討していきたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

- ・子育て親育ち講座については、講座と聞くと敬遠され参加しない保護者も多いため、講座を参観と参観の間に組み込んだり、親子向けの内容にしたりそれぞれ工夫し、開催している。
- ・子どもとの向き合い方や自身の育児に悩む人は多いが、日々の忙しさから見つめなおす時間がなかなかないのでとを感じる。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

- ・子育てサポーターの育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。
- ・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親（時には祖父母）に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

■本年度の活動

- (1) ブックスタート事業(年間 28 回)
- (2) 子育てサポーター養成講座(3 講座 1 見学)
- (3) いきいき孫育て講座(3 講座)
- (4) 子育て親育ち講座(園・小学校)(保幼 9 園実施予定)
(小学校 5 校実施予定)



【 子育てサポーター養成講座 】

■本年度の成果

- ・ブックスタート事業は開始から 10 年が経過し、事業開始当初の対象児が小学校に在学している。来られた方々が「赤ちゃんに絵本をもらえて良かった」「何を選んだら良いかわからなかったので参考になります」とおっしゃっていた。
- ・今年度から各種サポーター養成講座を 1 つに統合し、「子育てサポーター養成講座」として開催した。



【 ブックスタート事業 】

■今後の課題

- ・比較的取り組みやすいテーマでの事業の開催が多く、保護者のさまざまな悩み解決や子育てのサポートにつながるような新規テーマや講師の開拓が必要である。また、様々な子育て講座を開催していくにあたり、子育てサポーターの存在は欠かせず、多くのサポーターが活動に参加しやすくなるためにも、フォローアップ講座等を充実していく必要がある。

“親力”アップを目指して ～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 	
講座数（年間活動日数）	4講座（21日） ※ブックスタート事業は除く

家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
家庭教育支援員数	（ ）人
子育てサポーター等	（ ）人
実施開始年度 平成 23 年度	実施学校区数 （ 小学校区 ）

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成

子育てサポーター養成講座(全4回うち1回実地見学)

○学習講座・行事の実施

いきいき孫育て講座(全3回連続講座)

子育て親育ち講座小学校(8校枠うち5校程実施予定)

子育て親育ち講座保幼園(27園枠うち9園実施済みまたは予定)

○保護者に対する情報提供

「らっこだっこぎゅっと」チラシ発行(年間版)



【 いきいき孫育て講座 】

■ 特徴的な活動内容

○いきいき孫育て講座(全3回)

それぞれの発達段階に応じた孫との接し方・親世代の援助の仕方について資料やふれあい遊び、絵本などを通して学ぶ。

○子育て親育ち講座

園の参観や学校での参観・授業で、親もしくは親子と一緒に家庭教育について学ぶ。

テーマは食育・命の大切さ・運動・ふれあい・絵本の読み聞かせの大切さなど。

■ 実施に当たっての工夫

○「いきいき孫育て講座」については、基本は押さえながらも新しい内容も盛り込んであらゆる視点から講話をしていただいている。

○「子育て親育ち講座」では園や小学校の要望に応じて講師を紹介しているが、昨年度の実績だけではなく新しい講師にも来ていただけるように情報収集している。

■ 事業の成果

○アンケートでは「今と昔の子育ての違いがわかって良かった。」「すぐにやってみようと思うものをたくさん教えてもらい、再確認ができてよかった」などの感想だった。講座終了後に講師に質問や相談をされる方がおられた。(いきいき孫育て講座)

○どの講座も参加した保護者には好評である。日々の子育てを見つめなおす良いきっかけとなり、保護者自身も気持ちも軽くなっておられる方が多いと感じた。(子育て親育ち講座)

■ 事業実施上の課題

○事業や講座の参加につながる周知方法を検討する必要がある。

報告書記入者（ 子育て政策課 課長補佐 ）

湖南省における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が多忙で孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状がある。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育を行う上で困難な社会で、家庭環境が多様化している中で、子どもが学校生活に容易に適応できないといった困難を抱える家庭が増えている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を持ちつつ、地域を始めとしたさまざまな人とのつながりの中で、一緒になって家庭教育を行っていくという協働の関係づくりが重要である。孤立した子育てではなく、他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりができ、子どもの育ちを豊かにすることができる。

■本年度の活動

（1）家庭教育支援チームの設置・活動

- ①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援
 - ・保護者対象に毎週水曜日 13:00～15:00「菩提こはうす」で「ほっとサロン」を開設
- ②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け 広義のチームによる支援
 - ・保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施
- ③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援
 - ・保護者対象に毎月10日、20日、30日 子育てサロン「さんぽ」を開設
- ④菩提寺北小学校…チーム名「あすなるカフェ」…チームによる支援
 - ・保護者対象に各週水曜日 13:00～15:00 「あすなるハウス」で「あすなるカフェ」を開設

（2）学習講座・行事等の実施 【子育て講演会の開催】

保護者のニーズを受け止め、必要な情報を得ることのできる講演・講座を開催する。

■本年度の成果

・ 支援員や子育てサポーターは、保護者と悩みを受け止め、学校と情報を共有し、子どもへの支援の糸口を見つけ出すようにしている。また、学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携・協働の有効な相談対応、情報提供を進めている。

■今後の課題

・ 専門的な知識や豊富な実践経験のある講師を招いて魅力ある講座等を企画し、子ども支援にかかる研修の機会をより多くの人に提供していきたい。

「あすなるの家」にて
あすなるカフェ OPEN



毎週水曜日（都合によりOPENしない日もあります）

開店時間 9:30～15:00
（クラブ活動のある日は、14:45～15:30までクラブ活動にも参加いただけます）

MENU
（あすなるカフェの目的）

▽子どもたちは仲良しでも、あまり顔を合わせることが少ない親たち
ちょっと、学校にお茶しに来ませんか？
子どもの悩みや、生活の情報交換、なかなか日頃話せない事をお茶を飲みながら、おしゃべりしましょう。気軽にお越しください。

▽もちろん地域の方のご来店もお待ちしています。
おしゃべり+カルチャー教室（ビーズやフラワーアレンジメントのような）
やれたらいいなあ～～～

【 菩提寺北小あすなるカフェ 】

「あすなるカフェ」もっと気軽に立ち寄ってもらえる場にしたい～ クリスマスリース作り～

湖南省	
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	講座（28日）

家庭教育支援チーム数	（ 4 ）チーム
家庭教育支援員数	（ 5 ）人
子育てサポーター等	（ ）人
実施開始年度 令和元年度	実施学校区数 （ 4 小学校区）

■ 活動の具体的内容

- 家庭教育支援チームの設置・活動
あすなるハウスで「あすなるカフェ」開設。
- 学習講座・行事の実施
 - ・月3回程度 10時～12時「あすなるカフェ」開設。
 - ・12月「クリスマスリース作り」開催。
- 保護者に対する情報提供
 - ・「あすなるカフェ」開催日を事前にお便りで告知。



【 あすなるカフェでの作品作り 】

■ 特徴的な活動内容

- 月3回程度10時～12時に「あすなるカフェ」を開設
子育ての不安や日ごろの悩みをなど気軽に話せる場を設けている。
- 12月に講師の先生をお招きして手作りリース講座を開催した。
- 校内持久走大会の時間に合わせ「あすなるカフェ」を開き、バザーも開催した。



【 クリスマスリース・参加者作品 】

■ 実施に当たっての工夫

- 今年度は全日程午前「あすなるカフェ」を開き、参観日に設定するなど参加してもらいやすいよう工夫して、お便りで告知した。
- 自然素材を集め、少しの材料費で豪華なクリスマスリースを作ってもらえるよう講師の先生と打ち合わせを重ね、努力や工夫をした。
- 地域学校協働本部（あすなる応援団活動）と協働してバザーを開催したが告知不足か集客が少なかった。

■ 事業の成果

- 「あすなるカフェ」の存在はかなり周知されてきた。昨年同様に開催日以外でも相談を聞く機会もでてきた。
- クリスマスリース作りは参加者7名。講師の先生が卒業生の保護者ということで在校生の保護者も参加しやすかった。小学校は山に囲まれていて立地を生かした自然素材集めもでき、自然に触れてもらう癒しの時間となった。参加者それぞれ、個性豊かな素晴らしいリースが出来上がり、「また、参加したい！」とうれしい声も聞かれた。

■ 事業実施上の課題

- あすなるカフェにもっと気軽に立ち寄ってもらえるような場所にしたい。学校行事の際のカフェ開催を増やしたり、告知方法の検討も考えている。
- 参加者が少ないので、いろいろなジャンルのミニイベントを設定して来訪者が増える工夫をしていきたい。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化により親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、地域での人とのつながりの希薄化、少子化など、家庭教育を支える環境が大きく変化している。核家族化や地域の人間関係の希薄化に伴って、子育て世代が気軽に相談できる相手が不足し、家庭教育力の低下が進行している。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てを終えた世代が子育て世代を支援する体制の構築と、地域全体で子育てをする基盤の構築により、保護者が安心し、ゆとりをもって家庭での子育てを行えるよう支援する。

また各種講座の開催により、日々変化する情報社会と子育ての関わりについて啓発し、現代の家庭教育で何が問題となり、どのような支援が求められているのか知る機会を提供する。

これにより、保護者と地域が子育てに対して、より高い問題意識を持ち続け、教育の原点として家庭が子どもの「生きる力」を育む場として機能することを目指す。

■本年度の活動

（１）高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

子どもの育ちを地域で見守り、保護者の相談相手となるべく、組織化された家庭教育支援チームの支援活動を推進している。月２回、子育てひろばを開催しており、子育てや家庭教育に関する相談対応、学習機会の提供など、定期的な活動を実施している。

（２）共育学習会

親子を対象に、親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考える等、親と子が共に育つための学習の機会を提供する。

（３）子どもにどうかかわりあうか講座

市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として保護者を対象に実施している。その時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供している。

（４）地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成するため実施する。

■本年度の成果

家庭教育支援チーム「パラソル」では、親子ヨガや食育教室、歯科教室などのイベントを開催し、家庭で大切にすることについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などに参加することによりチーム員の能力向上に努めた。

地域教育力向上講座・共育学習会では、福祉部局等の関係団体と連携して、講座を開催した。幼少期、思春期の子どもとの接し方について参加者の方に学んでもらい、子育ての大切さを再確認する機会となった。

■今後の課題

・講座の参加者が減少傾向にあり、多くの人に受講してもらえるような工夫が必要になってくる。

家庭と地域が一体となって、子どもの「生きる力」を育む場に

高島市	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 □ 保護者に対する情報提供 	
講座数（年間活動日数）	20 講座（20 日）

家庭教育支援チーム数	(1) チーム
家庭教育支援員数	(12) 人
実施開始年度 (H26 年度)	実施学校区数 (13 小学校区)

■ 活動の具体的な内容

○地域人材の養成

・地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成するため実施する。

○家庭教育支援チームの設置・活動

・高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

家庭教育に関する相談対応や、親子で参加する取組・講座等の学習機会の提供を行っている。また、相談会・座談会などを開催し、家庭教育支援の拠点活動を行っている。

○学習講座・行事の実施

・子どもにどうかかわりあうか講座

市内小中学校および幼稚園、保育園、こども園の保護者を対象に、発達段階に応じた子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供する。

・共育学習会

親子を対象に親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が 필요한のかを考えるなど親子が共に育つための学習の機会を提供する。



【パラソルの活動様子】

■ 特徴的な活動内容

○家庭教育支援チームでは、毎月第2水曜日、第4土曜日に「ひろばパラソル」と称して

拠点活動を開催している。保護者の気軽な相談相手として、家庭教育支援チーム員が自身の経験から対応し、困難なケースは、福祉部局や専門機関につなぐこととしている。

○子どもにどうかかわりあうか講座では、地域の公民館と園・学校が連携して企画し、実施している。

■ 実施に当たっての工夫

○家庭教育支援チーム「パラソル」では、定期的にイベントを開催し、地域に「パラソル」

の事を知ってもらえるよう努めた。

■ 事業の成果

○家庭教育支援チーム「パラソル」では、親子ヨガや食育教室、歯科教室などのイベントを開催し、家庭で大切にすることについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などの参加によってチーム員の資質向上に努めた。

○地域教育力向上講座・共育学習会では、福祉部局等の関係団体と連携して、講座を開催した。幼少期、思春期の子どもとの接し方について参加者の方に学んでもらい、子育ての大切さを再確認する機会となった。

■ 事業実施上の課題

○講座の参加者が減少傾向にあり、多くの人に受講してもらえるような工夫が必要になってくる。



【共育学習会の様子】

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいないため、育児への不安やストレスを抱える親が増えている。また、生活習慣の乱れや経済的な困窮など家庭教育の支援を必要としている家庭もある。

これから親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、家庭教育の情報や学習機会の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもは地域の宝であり、親だけでなく地域に見守られ育っていくことが望ましい。「地域で子育て」というメッセージを発信し、次代を担う子どもたちを地域全体で関わり育てるという意識を浸透させ、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指す。



【親子ふれすて】

■本年度の活動

（１）家庭教育支援事業「親子ふれすて」

毎月第４金曜日を基本に、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと子育てについて話し合い、悩みを相談できる場所として開催。

（２）学習講座・行事の実施

- ・PTA等子育て学習会・・・保育園・幼稚園・小学校・中学校で開催（11講座）
- ・就学前学習講座・・・全小学校（5校）で年1回
- ・マイナス1歳からの子育て講座・・・2講座
- ・親育ち講座・・・2講座

（３）地域人材の育成

- ・子育てサポーター養成講座・・・3講座



【親育ち講座】

■本年度の成果

- ・親子ふれすてには、毎回10～20組の参加があり、交流、情報交換の場となっており、子育ての悩みの解消につながっている。
- ・小学校やPTA等と連携した学習会を開催し、多くの保護者に参加してもらうことができた。
- ・子育てサポーターの確保が課題となっていたが、他事業と連携した働きかけにより、新規で5名のサポーターを確保することができた。

■今後の課題

- ・子育てサポーターなど支援者の確保と育成が必要である。
- ・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。

「子育ては楽しくかけがえのないもの！」を合言葉に学びと出会いの場の充実を！！

日野町	
活動内容 <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	23 講座（23 日）

家庭教育支援チーム数	（ 0 ）チーム
家庭教育支援員数	（ 0 ）人
子育てサポーター等	（ 9 ）人
実施開始年度 （ H22 年度 ）	実施学校区数 （ 5 小学校区 ）

■ 活動の具体的内容

就学前学習講座（5講座）、PTA等子育て学習会（11講座）、親育ち講座（2講座）、マイナス1歳からの子育て講座（2講座）を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議（6回）、子育てサポーター会議（5回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（2回）を開催している。



【就学前学習会】

■ 特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、1日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス1歳（胎内）からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの！」と思えるパパ・ママを目指し子育て講座を開催した。

■ 実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」（毎月1日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス1歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定している。

■ 事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

○PTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

○マイナス1歳からの子育て講座

出産前から両親がしっかりと学習することで、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、ワンオペ育児の抑制に大きな効果があると思われる。

■ 事業実施上の課題

○各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう情報発信を工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子に対し、子育て情報や学習機会を提供できるよう取り組む必要がある。

○子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促すなど、しっかりと育成していく必要がある。

報告書記入者（ 生涯学習課 担当 ）

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

近年の様々な社会情勢の変化は、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く環境に大きな影響をもたらしている。特に、いじめや不登校に対する対策や急速な情報化社会への対応、家庭や地域の教育力低下に対する対応は喫緊の課題となっている。PTA会員を中心とした住民が地域の絆を深め、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決につながる活動および啓発を推進する。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりをめざす必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、子どもたちの夢と希望を育むため、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努める。

■本年度の活動

- ・ 随時 運営委員会の開催
- ・ 随時 講師等との事前打ち合わせ会議（意見交換会）の開催
- ・ 随時 案内チラシの作成と広報啓発活動の実施
- ・ 11月23日（土） 竜王町教育フォーラム2019
- ・ 3月中旬 次年度事業内容の検討会の開催



【 竜王町教育フォーラム2019 】

■本年度の成果

- ・ 町全域を対象とした教育フォーラムでは、「学校・家庭が思いをひとつに、竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～」のテーマに基づき、子どもたちが主体的に学び、行動する力を養うには、学校における「読(よみ)・書(かき)・算盤(そろばん)」といった基礎基本の徹底反復学習と家庭学習、規則正しい生活習慣の大切さを学ぶ機会となった。
- ・ 民間団体の代表にデータを交え分かり易くご講演をいただき、保護者からは改めて家庭における学習習慣の大切さ、規則正しい生活習慣を身につけることがいかに大切であるかを再認識する良い機会となった等の感想をいただいた。
- ・ 学校園単位で講座・行事等を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援をすることができた。
- ・ 子どもを取り巻くさまざまな被害の実態を知り、保護者自身の子育てにおける役割について再確認する場にするとともに、多くの保護者が集うことを踏まえ、子育てについての悩みを共感するだけでなく、子育てをする仲間として互いに支え合えるような保護者同士の関係づくりができた。

■今後の課題

- ・ 講座・行事等の参加者がまだまだ少ないので、事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を工夫していくことが必要である。
- ・ ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等への依頼の仕方、関わり方が難しい。

竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～

竜 王 町	
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	4 講座 （ 4 日 ）

家庭教育支援チーム数	（ 0 ） チーム
家庭教育支援員数	（ 0 ） 人
子育てサポーター等	（ 0 ） 人
実施開始年度 平成 22 年度	実施学校区数（ 2 小学校区）

■ 活動の具体的内容

○学習講座・行事の実施

- ・家庭教育支援研修会
- ・教育フォーラム

各学校園において子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。町内PTAを中心とした住民と一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深め、地域の教育力を醸成させる。

■ 特徴的な活動内容

【 竜王西幼稚園 】

○人権学習会

1月24日（金）の午前に開催。対象者は在園児の保護者。子どもを取り巻くさまざまな被害の実態を知り、保護者自身の子育てにおける役割について再確認する場にするとともに、多くの保護者が集うことを踏まえ、子育てについての悩みを共感するだけでなく、子育てをする仲間として互いに支え合えるような保護者同士の関係づくりを支援した。



【 竜王西幼稚園 人権学習会 】

【 竜王町PTA連絡協議会・竜王町社会教育委員の会・竜王町教育委員会 】

○竜王町教育フォーラム 2019

11月23日（土）午前に開催。対象者はPTA関係者、社会教育関係者、地域住民等。「学校・家庭が思いをひとつに、竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～」のテーマに基づき、社会教育委員による「我が家の子育て」についてのトークの後、「人生は、生活習慣と勉強の習慣で決まる～生活習慣の重要性、家庭の役割・学校の役割～」と題して、（一財）基礎力財団理事長で陰山ラボ代表の陰山英男さんに子どもたちが主体的に学び、行動する力を養うには、学校における「読（よみ）・書（かき）・算盤（そろばん）」といった基礎基本の徹底反復学習と家庭学習、規則正しい生活の習慣を身につけることが大切であり、この2つを車の両輪の如く取り組むことの必要性についてデータをもとにご講演をいただき、徹底反復学習と家庭学習、規則正しい生活習慣の大切さを学ぶ機会となった。



【 竜王町教育フォーラム 2019 】

■ 実施に当たっての工夫

○教育フォーラムでは、地域で活躍されている子どもたちの社会教育活動の成果の発表の場として、コーラスやダンスの発表を行い、保護者や地域の方々に広くPRする機会となった。

■ 事業の成果

- 人権学習会のテーマや内容が重く、研修に参加した保護者自身がどのように受け止めてくれるのかと思ったが、研修を通して、保護者自身が実際の状況をまずは知り、保護者としてどう子どもに向き合うのか、また、困った時に助けてもらえる機関があることを知ってもらえる機会となった。
- 保護者自身も不安を抱えながらの子育てであることを改めて感じ、幼稚園としても保護者をサポートできる場であり、保護者のニーズにあった必要な情報を提供できる場として、子育て支援には欠かせないと感じた。
- 家庭における学習習慣の大切さ、規則正しい生活習慣を身につけることがいかに大切であるかを再認識する良い機会となった。

■ 事業実施上の課題

○子どもたちの健やかな成長には、彼らが好奇心や創造性を持って物事に取り組む力を育き、達成感などを通して自己肯定感を得ることや、各家庭での「家庭学習や規則正しい生活」の習慣化に向けた日々の関わりが大切であり、保護者が家庭でできることにしっかり取り組み、学校と家庭が車の両輪の如く機能することで、子どもたちの健やかな成長を支援していきたい。

報告書記入者（ 公民館 公民館係 係長 ）